

安倍首相が「壊憲」答弁

「戦争できる国」への 暴走許さない

安倍首相は、国会答弁で「政府が新しい解釈を明らかにすることで（集団的自衛権の行使容認は）可能であり、憲法改正が必要との指摘はあたらない」などとのべ、解釈改憲によってアメリカと一緒に海外で戦争できる国へと変える集団的自衛権の行使容認をすすめる道に踏み込みました。



記者会見する志位和夫委員長

日本共産党・志位氏が批判

日本共産党の志位委員長はこの問題について記者会見で厳しく批判。特に重大なのは、首相が、「（政府の）最高責任者は私だ。政府の答弁に私が責任をもって、そのうえで選挙で審判を受ける」などとのべ、首相が自由に憲法の解釈を変更できるかのような発言を行っていることです。これは、最高法規としての憲法のあり方を否定し、立憲主義を否定する、きわめて危険なものです。

政府自身も自由に政府が憲法解釈を変更することはできないと説明してきました。安倍首相の発言はこうした政府の立場にも背くものです。

志位委員長は「『国家権力を縛る』という立憲主義を乱暴に否定するもの。絶対に許さない」と批判し、憲法破壊の暴走ストップへ国民多数の世論で包囲するたたかいをすすめることを表明しました。



自民党内からも 批判続出

「立憲国としてとても考えられない」「普通だったら予算委員会が止まるほどの大騒動」(古賀誠元自民党幹事長・TBSの「時事放談」にて)

「憲法上から、いまの内閣の歩んでいる道は非常に誤りつつある」(野中広務元官房長官・参院「国の統治機構に関する調査会」参考人陳述にて)

暴走ストップへ共同を広げましょう

●真実がわかる 明日が見える—「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。(日刊紙3400円/日曜版800円)

国政事務所ニュース

2014年
2月号外

発行：日本共産党国会議員団愛知事務所
〒460-0007 名古屋市中区新栄3-12-27 電話052-261-3461
日本共産党の見解を紹介します。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。